柳營婦女傳

七

和書門
類
一六〇一六
號
一七三
函
六
架
一八
冊

内閣文庫
和書
類
一六〇一六
號
一八
冊
一四五
函
一八
架

内閣文庫
番號 和 16016
冊數 18 (8)
函號 149 68

国立公文書館
National Archives of Japan

柳営婦女傳系巻之七

大猷院殿御母堂之傳系

内閣文庫

内閣文庫

崇源院殿之御傳系

崇源院殿は江州の産生なり当長政
の長女なり元和元年廣年院殿長政逝
られ給ふと金銭の徹田伝長
橋を家を伝長の孫長政讃岐
守の後妻改嫁小笠原忠真の妹
三人を儲け給ふ崇田孫郎丸再嫁

天正十一年柴田勝家も亦秀吉の為
に滅ぼされ其附勝家の姉の子中
村文荷斎も討死す勝家小谷の方并に
錯乱して自殺しければ天守に火を放ち文
荷斎も亦火中にて殺され死す附文荷斎
は勝家小谷の御方へ告て彼人三
人の息女を逃しまいらせ一家の名へ
を遣て秀吉へ之を送る女共へ送入
る後長女は秀吉の妾淀殿秀頼の母

二女は京極若狭守高次に嫁す 高次大津宰相と称之 常高院
に嫁し三女は江与と云大中納言秀忠公に再嫁す
佐治与九郎一成に嫁す 佐治八郎信方 次男
信長の妹なり 織田に嫁して信長 母 長男
の男織田上野介信包の甥佐治伊田に
を為当政所の料に佐治八郎信方
を殺害せしむと雖も与九郎一
叛き終に織田信包に従属し大坂に
て長終の下に三成十二年甲申四月

上総尾張ハ牧二戒の後ハ東照宮
州ヘ流罪延の路次尾張清須の城ヲ
く宗旨ヲ改る雖然ト及ヒ
ヲの間ニ九ヶ所一所ヲ公ク宗旨ヲ
メヲ以テ清須ヲ渡シ給フ東照宮感
恨のおはしまヲ秀忠公間及ヒ給フヲ
憤ト遂ニ病氣ト称シ使者ヲ以テ与
九ヶ所一所の表住味ヲ遂ヘ拒ク渡ヲ
所ヲ見ヲ給フ秀忠公ハ伺ヒ給ヒ

第ヲ知ヲ賢ハ不思ヲ給フ彼妻ト
安ヲ為ク作ヲ之ヲ尾ヲ家ヲ命ヲ与ヲ悔ヲ
思ヲ之ヲ心ヲ為ヲ給ヒ
薙髪ヲ作ル法ヲ巨ヲ或ヲ人ヲ名ヲ改ヲ五
ヲ之ヲ渡ヲ妻ヲ秀忠ヲ義ヲ女ヲ之ヲ母ヲ彼
ヲ乃ヲ秀ヲ徳川の中納言ヲ嫁ヲ給ヒ
ヲ秀ヲ忠ヲ徳川ヲ年ヲ五ヲ歳ヲ春ヲ彼ヲ
彼ヲ之ヲ為ヲ死ヲ給ヒ秀ヲ忠ヲ嫡ヲ婦ヲ如ヲ
ヲ秀ヲ忠ヲ義ヲ女ヲ為ヲ

左條の政所と称せら
れ姫君二人と申すと後に
左徒左衛尉義母とゝ二人有り平弘盛
左右兵衛尉と称し又義母
左衛左の長彼は平と称し又義母
とゝ文孫四郎しまの月十七日
左衛左と賜はりしを世に
衛尉と称し後京源頼朝と号する
男女の御子七人と有り

或人云江平氏は源氏に
御子孫成ち長大連の子孫と云
ふと云ふ故歟原氏と称し後
号尾左衛尉と称し後の世に
加茂と云ふ源氏と称し後の世に
於乃氏と云ふと遠江源
氏と御子孫と云ふ
龍後に諸子と云へ

源井氏　地頭職　家綱

敬屋氏　那波親宗

弓屋左衛門尉

十歳嫡子

三男次男

侯史　中納言

天智天皇八年十月十三日大織冠

中臣氏賜改姓藤原

武家之情

太政

藤氏家賜位記陣并親知殿下

侯政

知下也

家政

宗廣
知伊勢

宗政
知伊賀

清光
知阿波毛ノ八

宗政
大海之所

宗政
常陸

知月淵

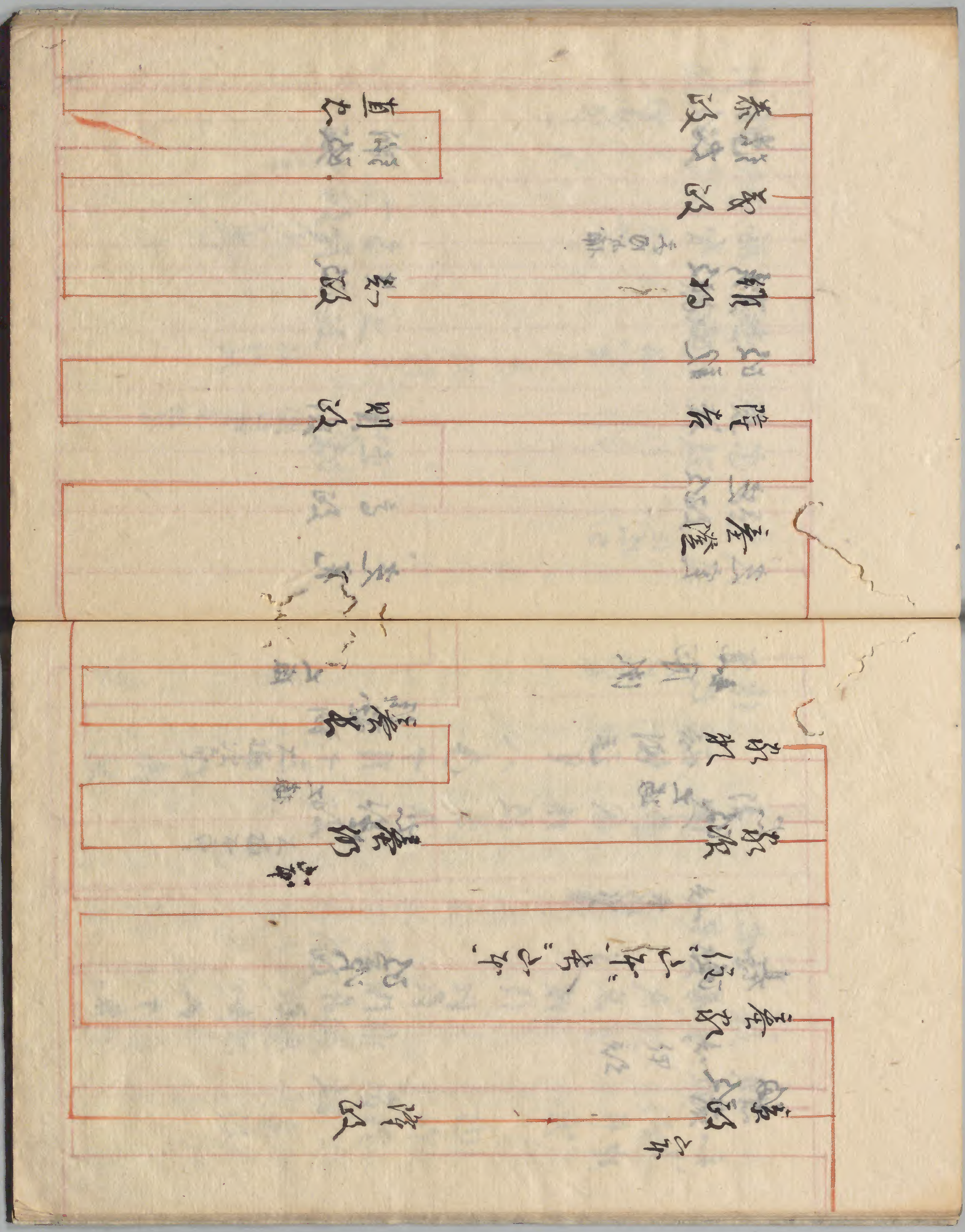
清宗
大海

宗忠
大海

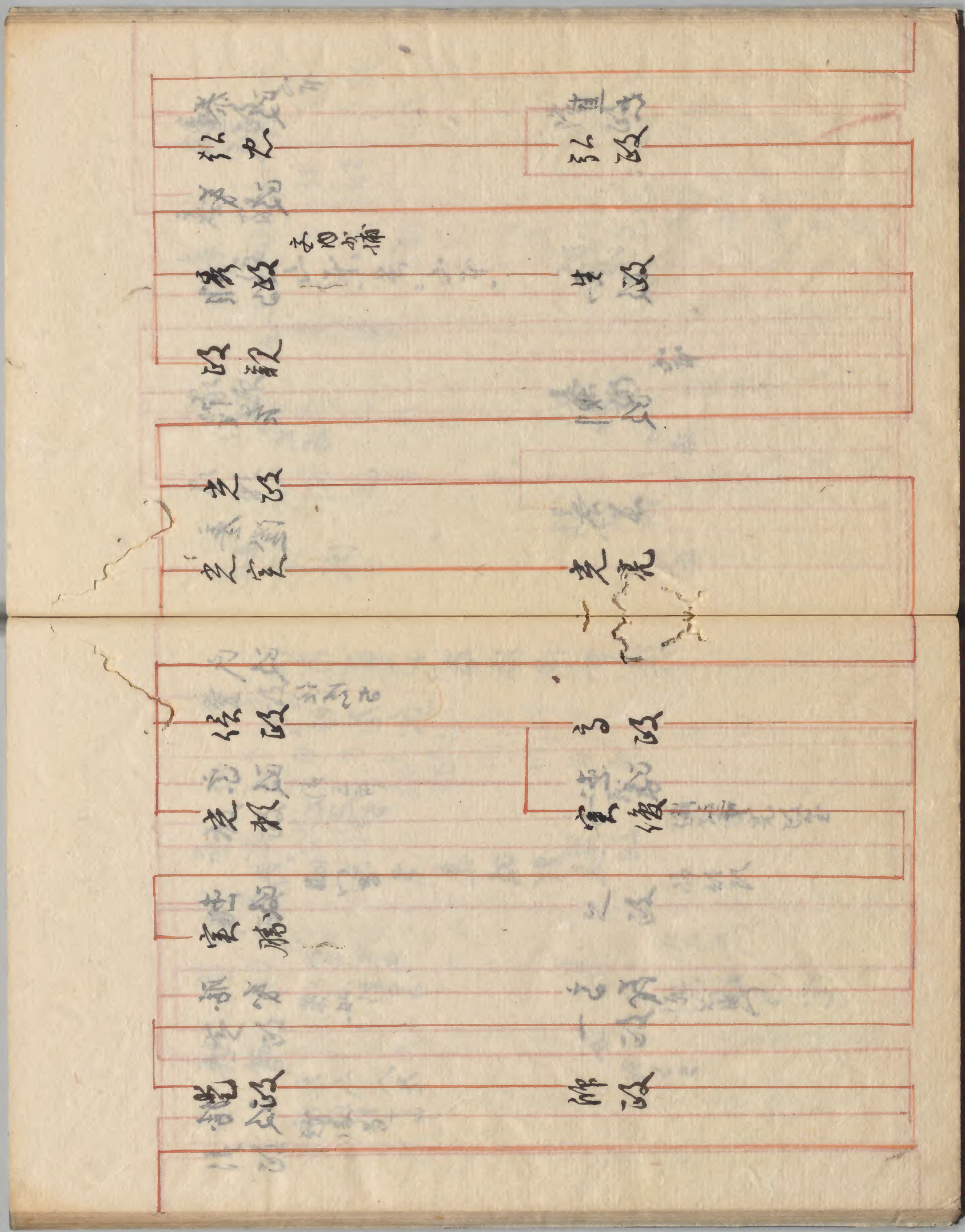
基政

政次

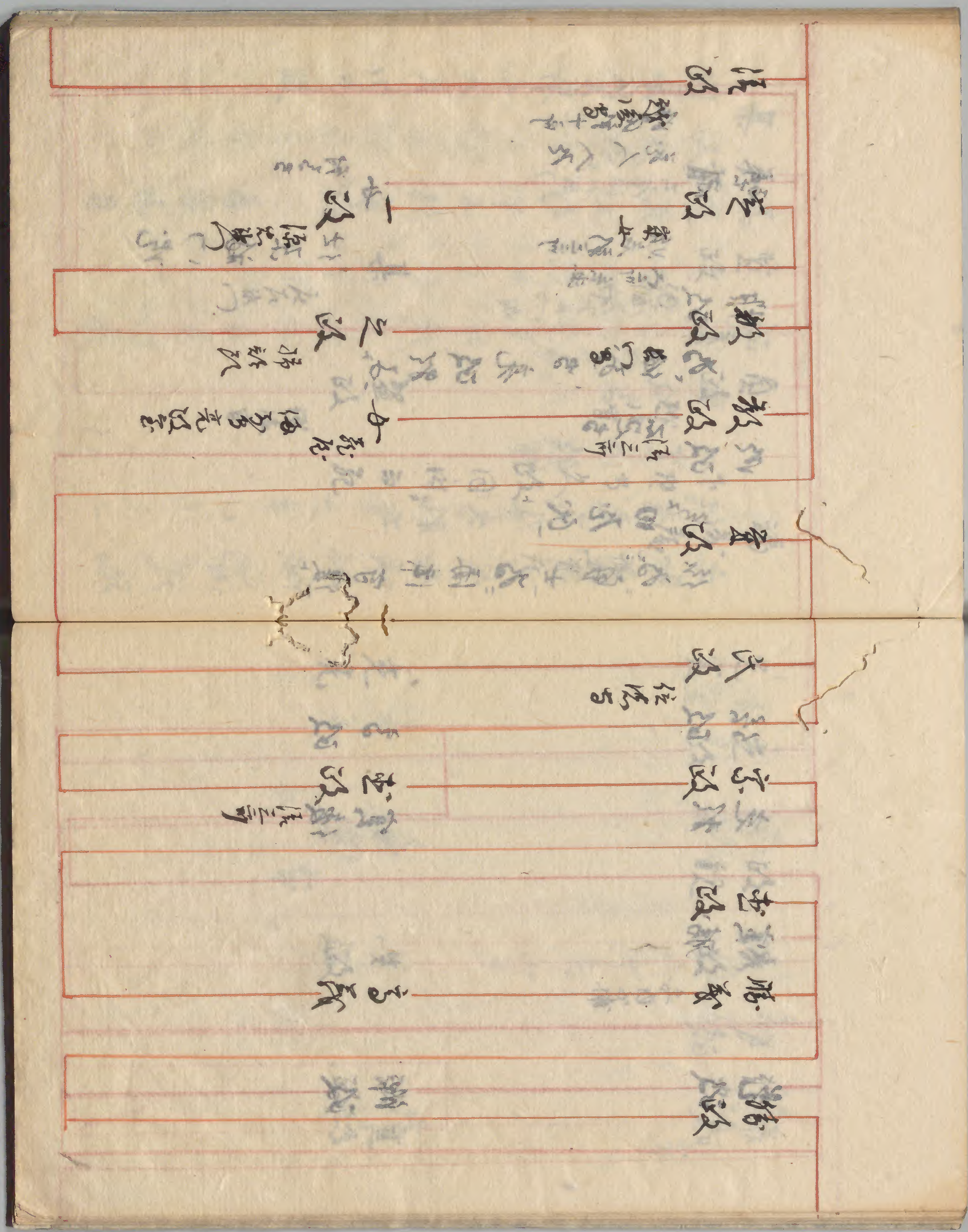
海政



国立公文書館
National Archives of Japan



国立公文書館
National Archives of Japan



国立公文書館
National Archives of Japan

頼政

藝閑
姫若新十郎
号人入江
一女
討死ス

姫若新三郎
六三所去出
仕東福門院

惟政
為伊予守亮政猶子ト

晴政
石見守

宗ス
田尾氏ト
依為ニ弟ニ一士為ニ海津守護ト

福寿庵
惟女首座
下野守之政同時ニ為死

貞政
越後守

道政
越後守

賢政
紀伊守

某
左兵衛門

美作

某

某

某

政亮

或政

実政

仕

之和元年乙卯大坂藩邸之時戦死

元年陸奥柳営ニ

月廿日歿

直政

三好左馬介

実政

実政元年甲子姫路城 幕府賜

人技拙

月七日廃ス月廿日歿

脱字等の三字不足

改暦

寛永九年癸未歟 後水尾天皇

寛永十年癸申 上洛市原新右衛門

仮式を布

集

寛永詩歌集 巻第四十二

廣改 海後ち

亮改 脱字等三字 海後ち

寛政年間之前 数改 祐[illegible] 永[illegible]

年代 辰八月六日 改法名

物書[illegible]改 [illegible]

天文十一年三月六日改

法名[illegible]賜ち 改 [illegible]

讀大原士

久政

[illegible]

天正元年癸酉八月廿八日生害

法名甲堅院殿[illegible]宗丘嶽良

[illegible]大居士

山城守

[illegible]

女　向殿　浅井備前守政之室

[illegible]

女　[illegible]殿

女　田屋殿　政宗

女　[illegible]殿　[illegible]田伊豫　[illegible]

長政

[illegible]

天正元年癸酉九月朔日[illegible]

寛永九年壬申九月十六日[illegible]

法名義源院殿西千俗亜相大英宗

法尼

女

名寄 後孫継敏

左同実法云宗教云母宗

母 織田太府伝長公妹 号小谷御方 長政後

妻再嫁 紫田

法名 大慶院殿

女

名初 京極高吉号浪宗

母 同上

法名 常高院殿

女

名江与 大御所秀忠御妻

母 同上

寛永三年丙寅九月十六日逝

法名 崇源院殿 一云大夫人号養形

與作徳太郎尾張二十三級之儀上章

天樹院殿御局

松坂局之儀

松坂局ハ是迄三人有之候以上宮
比丘尼御方ニ相成候人ハ此御殿の松
平左京大夫親綱の実母ニ而後剃髪ノ而也と称シ
候人も松坂局之次局勤候て天樹院
殿ニ而奉公いたし居候ほとニ而
之果し天樹院殿ニ而一周忌迄太

坂長州の門葉五箇条の論議詳なる
ものあるを三ヶ條仰無方考察
なるを法敬天祖皇神の
の伝授なる如中と雖も
天祖皇敬のお振神を
居管なれ[illegible]
[illegible]如き刑罰の有[illegible]
の内[illegible]
[illegible]の名を[illegible]
[illegible]法敬管[illegible]

[illegible]天祖皇敬を不計。新しく考察の
方へ[illegible]刑罰に市例な
中傳を主人計[illegible]場を[illegible]
[illegible]
計[illegible]
下[illegible]天祖
中を[illegible]
祖皇敬の[illegible]
行[illegible]

地蔵を尋ね附き来り候ゆえ
二條の市へ入り又国分寺へ下向
致し候ゆえ
出中法と申し板を
内を出中し松坂へと名を改め
京師を立ち申し候ゆえ
十三の帰家の
ものもらえ
それ松坂の者
地へと後と申し無度帰へ
迄は何者のなれ
あの文庫と
又万も
を行きもれ
の為用給ち
ゆえ
帰家へ
帰家は
出て

四位下は松平太を　これ奈良島庭
の紫清武と改称し
まり死去あり是に依て女中の晩
天樹院殿へ正此年五勅しを右の事
子の十兄命於表寄のなとく子太郎
ひて下され嫁ス湊に浪人の娘を方
生みし太の緑と以与太郎ひて松坂
角の於ゟ出て一派を葛川屋の
禄のちに入婿合ニ子んと家督して
松坂角兵衛と九十一歳にて病死

なほ名家の城源等に葉に墳墓あり
けれとい越智家の墓構今も今に
く城源ちの地にあり
一説に松坂角兵衛は此地筆柄太夫の
家人二年松太家臣後ゟ女ゟと
らし　よしよく考ふへし

東福門院御代
神戸一位面之儀
後陽成天皇

集

仮田篤信書

申氏家臣

集

仮田久兵衛

仕武田家

一 伝聞

法名 阿弥陀

此頃孔今川家臣神尾孫左衛門久家
妻ハ武田晴信ニ仕ル甲斐伊沢ノ住人也 永禄
三年庚申六月十九日久家死之ノ
後ハ武田の臣天正十年三月
不思議ニ信長ハ久家ノ妻子ヲ
招ク聘ヘ思ハ給ヒ 永禄
元ヘ歌作ト云フ 永禄元年頃

府ヲ御所ノ時ハ始メの事ハ
此書ハ始メの事ハ
此書ハ阿弥陀仏ノ事ハ
下ニ仕ル元和ノ六年庚申六月十八
日 後北尾常の中ノ事ト 右此
ハの此ハ原和ノ子孫ハ
国ニ有ル阿弥陀仏ハ入
ル 歌ハ 代と加ル一伝
建ニ平武江泥ハ言歌ハ孔ハの
所蔵之 家所ハ 歌ハ孔ハ

御養子家督相続仰付
旨家老連名を以て被
仰渡
法嗣雲光院殿一位左大臣松平慶
喜大将

仮田又左衛門

墓

天正十年壬午三月十二日武田勝
頼生害甲斐滅亡武田左衛門佐
入道信玄嫡孫諏訪四郎勝頼人生

一無比之人魂之永後年尾張大正の
[illegible]

仮田又左衛門

墓

太山子力　同上

女

神尾伯耆守光勝室

神尾一位乃義女　配合之

孫兵衛　お石殿と婚　女子
沖田刑部少輔　後改信下
守　女子　信之

元服　沖田源兵衛　後改信下　刑部宗休

寛永拾壱年閏正月　沖田刑部宗休
門男之太郎氏親が幽死之時
定府之者共出家　一信面へ金流
之義を以為之　沖田刑部久兵衛

賀子有　沖田氏と云へ称し

紹之　沖田長兵衛　後改信下

娘　元玲
母　太尾太郎左衛門信女

元郎　沖田源之丞

元貴　沖田左兵衛

御扶子五百石

元清
神尾内記
母同上

元定
初名平之亟
神尾市左衛門
稲川十左衛門

某

神尾五右衛門

某
母同上

守勝
神尾宗内加備

実父今川氏真ノ具勝妹二美長十二年丁
未十月十七日七家の内嫁系職
ノ儀ヨ依尾元和六年庚申
ノ儀入　内の内休年同八年
ノ儀中奥　室下の内為女出
氏信二任死　信と改錦内ニ呼名
於御寛永三年内室九月二日
行一寺院信卑の叔引し同年
十一月依病端納江戸ヘ下向
依為氣晩温メ神尾方晩ヲ嫁
し本眼方正と惑去日七年庚
年同五日致内大九家
依名氏性悦好絶

国立公文書館
National Archives of Japan

異

弥尾張之水

異

弥尾張之水

為[illegible]二面名[illegible]入[illegible]小地紙三毒

異

弥尾張之水

寛延[illegible]長比 萩田[illegible]る[illegible]而 年人次郎

也同氏之京大夫伯母方の孫

[illegible]也

寛文十二年壬子年也月 日入御書

[illegible]毒 九毒

異

弥尾張之水

[illegible]小地紙 寛田[illegible]紙已京妹

享保二年乙酉十一月同氏弁紀無

定金拾八匁御渡被の内拾匁
永加制の別紙有因用被仰付
為後日証印帳如件　三英虎政
四年分之分くに付中上拾匁
江戸市場御免下名警所

第十二表三

沖尾文命文

集

為仕出申証文之事

集

為仕出申証文之事
御所様より被下之御
御所様より被下之御
家保元年十一月廿四日
紀伊入国御祝儀
之同日御紀之
有之候為

諸虎介記

某

右之品々書写ニ而所

寛保弐年戌十一月廿八日差上

令出入候儀ニ付御評議の上ニ而被当

右保科中将正之乃御母堂

浄光院殿と号

右乃筆秀忠公の御末男保科肥後守

正之の御母堂ハ武州板橋竹村の

大工の娘ニ而京職安兵衛姪是

迄江戸ニ来て　御城の奥方へ下女

奉公ニ勤居の処　秀忠公の御目

に出りてそのかたく不計懐妊と
なり給ふ處秀忠公の御台所は
浅井備前守長政の息女にて御子女数人
男子三人御誕生之内家光公及
長松君にて駿河亜相忠長卿の御母
堂之をは外に寵せ置く此御台所御
嫉妬の御深かりければ大将も御憚て
ありしかは不計召されし此懐妊之
此婦人名お静の方と称せる處

に御台の御嫉妬深くかくされ大猷
君の御側女をかくし信松比丘尼と
称せしは武田信玄の娘之お静の方
は彼信松比丘尼の許へ帰りて近き
に住して信松比丘尼と共に慶長十
六年辛亥五月七日武州安達郡大石
木村にて幸松君と号し給ふ後保
科源正光朝臣の養子となり後
会津城主となりて従四位上に

叙事されたる出来事は
元亨の大老職を辞し
て寛文十二年三
月十八日没年七
歳。法號六十一歳四十六年寛永三月
十八日奥州会津城下慈恩寺林
中院に葬る法上記紀氏家古伝記
弥之孫今松年紀故なる紀氏
伝説尾上
大津原の市八郎武
田七郎伝右衛門の市場
の市場

武田伝右の長女
二子静の市の伝
浄光院殿と称し奥氏を使と伝
年の記載一定と違ふあるも氏浄光
院と名付為寺料百石の市家市家所
あり保科家と武田家の士
伝説尾上と長を聴き出入り
取扱方問答及ぶこと

国立公文書館
National Archives of Japan